

883. Pythagorean ring = 付イテ, III

吉田 耕作 (改大)

Pythagorean ring の公理, 特 = "positiveness
ノ公理" が外見上, 最近 announce サレタ M. Stone⁽¹⁾,
ソレヨリ強ク見エナイカト三林氏 = 御注意ヲ頂イタノテ, 此
機會 = Stone トノ關係特 = P. R. が Stone ノヲ含ムコト
等述バテヲキタイ。

Stone ノ公理及ビ結果ハ後ニ述ベルコト = シテ先ヅ次ノ
点ヲ強調シトキマセウ。Stone ハ "boundedness" —
後述 — ヲ假定シテ $R \times R = R$ 考ヘタル ring が特 = "linear
metric space" = + \mathbb{R} 。從ツテコノ "conjugate
space" が使ヘル。ソノスレバ ring ノ "具體的 + 表現"
ハ ring ノ要素各々ヲ "適當 = トツタ conjugate space
ノ部分集合" ノ上ノ函數ト考ヘルコト = ヲツテ得ラレル。此
ノ principle ハ, モトモト Banach ト Mazur が
"任意ノ可分 + Banach space ハ Banach space
(C) ノ部分線狀空間ト表ハセル" = 用ヒタモノデアツテ,
最近角谷君々 Russian school ノ人々が之レ = semi-
order トカ其ノ他種々ノ條件ヲ附シテ具體的表現ノ有用ヲ
書懸 = 使ヘルコトヲ示シタノデアル。此ノ鮮カチ principle
ガアル以上, "具表" ノ問題ハ linear metric space
ノトキハ spectral theorem ヲ離レテ論ジラレルト云フ

(1) Proc. Nat. Acad., 26(1940). 280—283

点ヲ易シクナツテ了ツタ譯デアル。—— 表現シテ了ヘバ(例
ヘバ (C)ノ場合ハ駄目ナコト明カダガ) *spectral theorem*
ヲ出スノハ階段函数ノ多項式近似ニモツテユケレトキハ明カ
ニワケハナイ。(或ハ "*semi-ordered modul*"ノト
キハ多項式ハ使ヘナイガ, H. Freudenthal 流ニヤレル。
此ノ場合ハ結局"具表"ト *operational calculus* トハ
別ノ話ニナル。)

之レガ又 *Stoile*ノ行き方デモアルラシイ。証明シテナイノ
デハウキリワカリマセンガ。序デナガラ最近 C. R. URS S
ニ出タ Krein⁽¹⁾ノ論文"内部的性質ニヨル (C)ノ特徴付ケ"
モ此ノ方針ヲシク, ソンナラ既ニ角谷君ノ得タ結果"学士院
記事 16 (1940), 63—67"ニ一致スルワケデアリマス。
勿論 Kreinノ角谷君ノ論文ヲ知ラナイノデアリマセウ
ガ。

以上ノ次第デ *linear metric* デナイ場合, 例ヘバ
"可測函数全体ノ空間ノ特徴付ケ"等ノ場合ハ話が別ニナル。
*Pythagorean ring*ハ *metric axiom* (*topologi-*
cal axiom 廿ハモ)ヲ假定セズニ云ハル *ring-lattice*
論的ニ *spectral theorem* ト"可測函数ノ空間"トヲ取
扱ヒタイタキニ考ヘタ訳デアリマシタ。

§1. *Pythagorean ring*ノ公理

談話 873ニ述ベタ公理ハ一寸誤リモアリ, 又談話 875

(1) C. R. URS S, 27 (1940), 427—430

=述ベタ公理 iv) / 廢棄ト云フ所ヲ述ベタ所モ筆が之リス
 キタマウデス⁽¹⁾カラ、今一度公理ヲ訂正シテガヲ述ベテオキマ
 ス。談話 873 =於ケルヨリ *practical* =使ヒヨイ形ニ
 ナツテル積リデス。⁽²⁾ (誤リヲ正シテ所ヲ除イテハ兩者同等)。
 但シ公理群ガモット簡單ニナルコトハ望マシイト思ヒマスガ。
次ノ公理群ヲ満足スル環 R ヲ *Pyth. ring* ト云フ。

(A-1) R ハ可換ナ環デアリ單位 I ヲ含ミ且ツ實數体ヲ係
 數トスル。 (R) ノ元ヲ X, Y 等實數ヲ α, β 等ヲ表
 ハス)

(A-2) $X^2 = 0$ ナラ $X = 0$

(A-3) 零デナイ X ガ $X = Y^2$ ノ形ナルトキ X ヲ“正ノ元”
 ト呼ブ。然ラバ正ノ元ト“非負ノ元”トノ和ハ正
 デアル。即チ $X \neq 0$ スハ $Y \neq 0$ ナラバ $Z \neq 0$ ガ存
 在シテ $X^2 + Y^2 = Z^2$.

(A-4) *semi-order* $X > Y$ ($X - Y > 0$ ノコト) = ヨ
 リ、任意ノ X = 對シ X ト 0 トノ *least upper*
bound $\sup(X, 0)$ ガ存在スル。

(A-5) $X^+ = \sup(X, 0)$, $\sup(-X, 0) = X^-$ トヲ
 ケバ全テ $X =$ 對シ X^+ . $X^- = 0$.

(A-6) 点列 $\{X_n\}$ ガ $X_n \leq X_{n+1}$ 且ツ或ル $Y =$ ヨリ
 $X_n \leq Y$ ($n = 1, 2, \dots$) ナラバ *least*

(1) 廢棄デキルノハ加法ニ關スル部余大デ乘法ニ關スル方ハ
 公理 iv) 必要デス。

(2) 証明容易デス。

upper bound $\sup_{n \geq 1} X_n$ 存在ス。

(A-7) $A > 0$, $X_i \geq 0$, $X_{i+1} \geq X_i$ 且 $\sup_{i \geq 1} X_i$ 存在
スレバ $A \cdot \sup X_i = \sup (A \cdot X_i)$

(A-8) $X_i \cdot X_j = 0$ ($i \neq j$) + ラバ

$$\sum_{i=1}^{\infty} X_i = \sup_{n \geq 1} \inf_{m \geq n} \sum_{i=1}^m X_i = \inf_{n \geq 1} \sup_{m \geq n} \sum_{i=1}^m X_i$$

$\in \mathbb{R}$

§ 2. Stone 公理ト結果

次ノ公理群ヲ満足スル環ヲ考ヘル。 — Stone = $\exists \nu$

「斯ル環ハアル *bicomact* 空間ノ上ノ「有界且 Borel 可測函数ノ作ル環」トシテ具体的ニ表現サレル。

(B-1), (B-2) 夫々 (A-1), (A-2) ト同シ。

(B-3) \mathbb{R} ノ幾ツカノ元ヲ「正ノ元」ト呼ブ。 X ガ正ノ元
トルコトヲ示スノ $X > 0$ ト記ス。 然ラバ $X > 0$,
 $Y > 0$ + ルトキ $X + Y > 0$, $X \cdot Y \geq 0$, $\sqrt{X} \geq 0$
($\sqrt{\cdot}$ ハ実数 ≥ 0)。 又 $I > 0$, 0 (零) ハ正ヲナ
ス。 且 $X \neq 0$ + ラ $X^2 > 0$ 。

(B-4) 任意ノ $X =$ 對シ実数 α, β (≥ 0) ガ定ツテ
 $-\beta I < X < \alpha I$ (1) — “boundedness axiom”

(1) $X > Y$ ハ $X - Y > 0$ ノコト。 コノ公理ノ外ニ環ガ *linear metric space* = ナル。 即チ $\|X\| =$ 上ノ如キ α, β ノ *g. l. b.* トトレバヨイ。

(B-5) (A-6)と同じ。

§3. Stone, ring, Pyth. ring + ルコトノ証

1) $X > 0$ トスルトキ $X = Y^2$ ト書ケルコトノ証。

$X < I$ ト假定シテヨイ ((B-4) = ヨル)。ヨツテ operator theory ノ常套手段ヲ $\sqrt{1 - (1-x)}$ ノ \square 級数展開ニ於テ $x = X$ ヲ代入シテ $X^{\frac{1}{2}} \geq 0$ ヲ得テ $(X^{\frac{1}{2}})^2 = X$ 。

2) (A-4) ヲ出スコト。—— 同時ニ (A-5) ニ出ス。上カラ $|X| = (X^2)^{\frac{1}{2}}$ ガ定マリ; $|X| \geq X, -X$ ト容易クワカル。 $|X| = \sup(X, -X)$ トコトハ $X' \geq X, -X$ トスルト $X'^2 \geq X^2$ ヲ得ルコトカラワカル。何者次ニ示スヌウニ $0 < X, 0 < Y, X^2 < Y^2$ カラ $X < Y$ ガ出ルカラ。

$$\left(X^+ = \frac{|X| + X}{2}, X^- = \frac{|X| - X}{2} \right) \text{トヲケバ}$$

$$X = X^+ - X^-, |X| = X^+ + X^- \text{ 且ツ } X^+ \cdot X^- = 0 \\ (X^2 = |X|^2 = \text{ヨル})$$

故ニ談話 875 公理群カラノ結果1)ノ訂正 ト同様ニシテ $0 < X, 0 < Y, X^2 < Y^2$ ヨリ $X < Y$ 出ル)。

従ツテ $|X| = \sup(X, -X) = \sup(X, -X, 0)$ ヲ得テ上ノ $X^+ = \sup(X, 0), X^- = \sup(-X, 0)$

ナルコトモワカッタ。

3) (A-7)ヲ出スコト。

形ワカヘテ $A > 0$, $X_i \geq 0$, $X_{i+1} \leq X_i$ 且ツ

greatest lower bound $\inf_{i \geq 1} X_i = 0$

トキ。

$$A \cdot \inf (X_i) = \inf (A \cdot X_i)$$

ヲ証明シマシ。左辺 0 ガカラ右辺 0 トコトヲ示セ
ル充分。

所ガ (B-4) = ヨリ $A < \alpha I + \beta > 0$ ガアルカラ
明カ。

4) (A-8)ハ不要。

何者、Stone, ring ハ (A-1)乃至 (A-7)
ヲ満足スルカラ、談話 873, 875 = ヨリ “可測函
数環” トシテ具体的ニ表現出来ル。然モ (B-4) ガア
ルカラ “有界可測函数ノ環” トシテ (A-8) ガ必要
ガッタノハ有界デカイ函数が登場シテ来ルタメニデア
ルカラ。

以上ニヨツテ “boundedness” ガドンナニ強イ公理
デアアルカミワカッタ。勿論 Stone, 公理群ハ、ノ代リ使ヒ
易イ。特ニ Hilbert 空間, 有界 + Hermite 作用素 H
ノ spectral theorem ヲ出ストキニハ, H カラ生成サ
レル環ガ (A-1) 乃至 (A-7) ヲ充タスコトヲ試スヨ
リ, (B-1) 乃至 (B-5) ヲ満足スルコトヲ試ス方ガズ
ット容易デアアル。併シ上ニ示シタ如ク Stone, 公理カラ

$(A' - b)$ 乃至 $(A - \gamma)$ の出て來ルコトヲ証明スルコトモ
 簡單ナカラ $\sqrt{(1 - (1 - t^2))}$ ヲ使フ式ケ
 "boundedness" ヲ assume ヲルガ有界デナイ operator
 ヲ函数ヲモ含ムヲウニシタ方が一般デヨリハアルマイカ。